

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第2回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成22年6月30日（水）午後7時15分～9時10分
開 催 場 所	ボランティアセンター会議室
出席者及び 欠 席 者	出席者：（座長）渡辺龍也 （委員）飯塚十日子、鴻田臣代、小西喜芳、塩田和行、藤本信子、佐々木久子、中島秀雄、木村祐子 欠席者：（副座長）杉澤幹生、高木寛之 （委員）安島敏市、伊藤輝男、藤崎由美子 事務局：地域振興課主査、地域振興課主事
報 告 事 項	(1) 平成22年度第1回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について (2) その他
議 題	(1) 市民と行政の意識改革の推進等について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	(1) 武蔵村山NPOネットワークにて「市民版タウンミーティング」について具体的な実施方法・時期等を考え、次回の会議では10～12月の実施に向けて決定する方向とする。 (2) 7月以降の会議日程は、調整のうえあらためて通知する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)  (発信者) □印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局	報告事項 (1) 第1回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について ● 7月7日（水）までに修正等の連絡をされたい。 (2) その他 ○ 「武蔵村山NPOネットワーク」の活動について報告。  議題 (1) 市民と行政の意識改革の推進等について ● 杉澤副座長によるコーディネートがされる、杉並区民タウンミーティングが7月3日（土）に行われるので、参考までにぜひ参加していただきたい。 ● 次第3ページについて説明。 □ 高木副座長の案は、今後実際に意識改革を進めていく上での参考にしていきたい。前回の会議の中で22年度の検討課題として「市民と行政の意識改革」、「多様な市民活動についての理解」、「市民活動団体の足腰強化」の3点が上がった。それを踏まえた上で一つずつ考えていくか、事務局の案を用いてあるべき姿に対する現実の姿を考えていくか、委員の皆さんのやりやすいやり方を議論されたい。 ○ いずれにしても、内容が漠然としているように思われる。具体的なやり方について詰めていきたい。 □ 前回挙げたタウンミーティングについてはどう考えられるか。 ○ タウンミーティングをやるにしても、市民協働という論点に魅力が感じられないのではないかと。また、地域によって市民のニーズもバラバラで、まとめることができないのではないかと。 ○ まちづくりの中心には市民の存在がある。その中で子供や障害者等の各分野に絞って問題解決をしてみてもどうか。 □ 分野を分けると他の分野に対する対応が疎かになる恐れがある。

- 分野を分けることにより接点が生まれるのではないか。例えば高齢者と子供のコラボレーションで何かできることがあると思う。
- まずは高木副座長の案などを利用し、各地域における問題を洗い出す必要があると思われる。
- 例えば1つに絞らずに3～4つの分野を例示し、それに対して議論してみてもどうか。その問題の洗い出しが、来年度から実施予定の市民協働提案制度にも生きてくるのではないか。
- 自治会を中心に活動をしていきたい所ではあるが、加入率の低さが問題である。
- まちづくり一つをやるにしても、具体的な目的が必要である。
- 具体的にどのようにまちづくりに関わっているか分からない活動でも、まちづくりにおける根になっていると思われる。
- 人と人の関係づくりも立派なまちづくりの要素である。
- 価値観を共有できるような、魅力的な告知が必要ではないか。
- 武蔵村山を地域で分けるとすれば、おおよそ何地域に分けることができるか。
- 東西南北でおおよそ4～5つに分けることができる。また、それぞれの地域で市民の性質が異なる。
- 地域の問題を洗い出すことに関しても、中心となって活動を引っ張る人物が必要である。
- NPOは、全ての団体が共通の目的の事業をしているのか。
- それぞれ異なる。よって自治会がまとめることが最も有効と思われる。
- 各自治会のまつりの関係もあるので、デユダラが終わった11月頃に準備をし、2月ぐらいにはタウンミーティングをできるようにしていくのがいいのでは。
- 市民に理解してもらうための市民協働提案制度のリーフレットが必要ではないか。また、それを回覧板で回すことはできないだろうか。
- 協働事業提案制度実施のために問題を洗い出すのか、問題を洗い出すために協働事業提案制度を実施するのかをもう一度考えていただきたい。
- 双方を実現するためのタウンミーティングであると考えられる。課題探しのみで終わっては意味がない。
- あくまでも地域課題の解決方法の一つの方法として協働があると考えべきではないか。また、その問題が自分たちで解決できるのか、協働によって解決できるのかを見極めることも必要であると思われる。
- あくまでも地域課題の解決が協働の目的であることを見直さなければならない。
- タウンミーティングにおいては地域にどのような問題があるのかを気づいてもらうだけではなく、それをどのように解決していくのかを考えてもらう必要がある。その際に手法の一つとして市民協働提案制度があることを知っていただければいいのではないか。
- 自助・共助・公助という言葉があり、全ての問題が市民協働提案制度で解決する必要があるわけではないと思われる。よってどのように解決するのかを見極める事が重要ではないか。
- 自治会へ協力を依頼する際、どのように持ちかければいいのか。
- 自治会の中のみではなく、自治会を通して地域の方々に周知していくという考え方がいいのでは。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● そもそも自治会に限定する必要はないと思われる。</li> <li>○ 自治会の加入率が約3割という状況下で、残り7割はどうするのか。</li> <li>□ この場だけでの議論では語りきれない部分があるので、NPOネットワークにて具体的なタウンミーティングの開催方法等を考えていただきたい。</li> <li>○ タウンミーティングにおいて、より具体的にまちづくりについて考えていただくことで、市民に「自分たちが協働によりまちづくりに参加しているんだ」という意識を持ってもらうことが重要ではないか。</li> <li>○ また、協働に係っていただくための取掛かりを作れるようなファシリテーターを中心に立つ必要があるのではないか。</li> <li>○ ボランティアに登録されている団体を巻き込んでいく必要もあるのではないか。</li> <li>● 自治会をやっていないからまちづくりに興味がないということではないと思われる。また、一過性ではなく持続可能な仕組みにする必要がある。</li> <li>○ タウンミーティングはどのような規模でやるのか。</li> <li>□ 40～50人ぐらいではないか。多いほど望ましい。</li> <li>○ タウンミーティングは何回やるのか。</li> <li>○ 市全体でやらないことには地域によって開催回数等で偏りが出てしまうのではないか。</li> <li>○ 地区会館等の公共施設を有効利用する必要がある。</li> <li>○ NPOやボランティアの活動について回覧板で回し、市民に活動を知ってもらう必要があるのではないか。</li> <li>□ NPOネットワークに、本日の意見を参考に次回に向けて具体的な進め方の原案を作っていただきたい。</li> <li>● NPOネットワークを中心に市民版タウンミーティングのやり方、時期を含めて考えていただく。</li> <li>○ 了解した。</li> <li>□ 10～12月の実施に向け、次回にはタウンミーティングの方法等について決定する方向にしたい。</li> </ul> <p>(2) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 次第4ページに基づき説明。</li> </ul>
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 [ ]	傍聴者： _____ 0 人
-------------	---	----------------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： _____） <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等： _____）
--------------	---

庶務担当課	市民生活部 地域振興課（内線： 224 ）
-------	-----------------------

（日本工業規格A列4番）